

## 電子商取引の現状

### (一) ネットショッピング

インターネットなどの情報通信ネットワークを利用して電子的に商取引を行うことを電子商取引、エレクトロニックコマース、eコマース（e-commerce）といいます。企業間での電子商取引はB to B（Business to Business）と呼ばれ、さまざまな技術を使って従来からもありましたが、近年のインターネットの普及により一般の消費者を対象とした電子商取引が急速に拡大しています。B to Bに対して、企業と消費者との間の電子商取引のことをB to C（Business to Consumer）と呼び、消費者間での電子商取引のことをC to C（Consumer to Consumer）と呼びます。

B to Cでは、Webページを使って商品の販売を行う電子商店が代表的なものです。消費者側からいえば、ネットショッピングと呼びます。ネットショッピングは、消費者側では通信販売と同様にWebページに載っている多彩な商品を確認しながら注文することができ、企業側では消費者が注文をするとそのときの在庫がリアルタイムに更新され、在庫状況をWebページに反映することができます。商品代金の支払いはクレジットカードを使って行うこともでき、自宅にいながら商品の購入ができます。また、海外のWebページからも商品を取り寄せることができます。商品以外でも人材派遣や販売仲介を提供するサービスや、株式などの金融商品を売買するオンライントレードなどがあります。

C to Cでは、誰でも気軽に品物を出品したり、入札したりできる競売（オークション）のWebページが代表的なものです。これは、ネットオークションと呼ばれています。ネットオークションでは、落札側（買う側）は良い品物を安く購入できたり、掘り出し物を購入できたり、出品側（売る側）は売りたいものが売れるというように、双方に利点があります。インターネットの普及で拡大した市場といえるでしょう。

### (二) 詐欺行為

ネットショッピングやネットオークションなどのインターネット上の電子商取引は歴史が浅く、多くの課題をかかえていることも事実です。

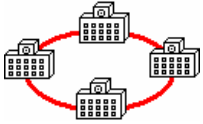
インターネットは誰もが使えるオープンなネットワークですから、このような電子商取引を個人の活動で行うことができます。そのため、今までの流通システムとの間で摩擦が生じたり、今までの取引システムから比べると課金や決済のシステムが未整備であったりします。また、インターネット上で個人情報保護などのセキュリティ確保も発展途中の技術的課題です。

使う側の個人的問題として、ネットショッピングで楽しくなつてつい商品を多く買いすぎて後で後悔してしまったり、ネットオークションの入札の雰囲気にもまれて過熱し、思わず高値で落札してしまったりということもあるようです。

提供する側の問題として、代金をだまし取る詐欺行為や、盗品や偽物、薬物などの禁制品等の取引、公序良俗に反するものの取引など犯罪行為におよぶ者がいるということを認識しておかなければなりません。

詐欺行為には、ネットオークションで偽名を使ったり別の人になりすましたりして参加し、商品や代金をだまし取るなどする事例があります。また、実在する金融機関や企業からのメールをよそおって「セキュリティを強化する」等の口実をつけて言葉巧みに偽のWebページに誘導し、暗証番号、カード番号、ID、パスワードを入力させ、それらの情報をもとに、偽造カードを作ったり、ネット決済に悪用して現金を引き出したり、商品を購入するというもの（フィッシング）もあります。

インターネットが電子商取引を容易なものにしたことにより、こうした詐欺行為も容易になっている現状があります。インターネット社会がまだまだ発展途中の社会であることから、私たちの情報モラルが問われる社会でもあるといえます。



## ネットショッピングの学習

多くの学校では、学校情報ネットワークを使っているネットショッピングやネットオークションへの参加を禁止しています。その理由には、氏名、住所、電話番号、メールアドレスなどの個人情報を発信することや、代金授受をとまなう個人的な行動を学習活動として位置付けることが難しいことがあげられます。

しかしながら、ネットショッピングの Web ページであっても購入を行わない、いわゆるウインドウショッピングであれば、授業で取り上げることが可能であると考えられます。その際、生徒たちが一度に同じサイトの同じ Web ページにアクセスするなど、ネットワークに負荷をかけることや相手方のサイトに迷惑をかけることがないように、授業の進め方に工夫が必要です。

### 自分を守るために

ネットオークションやネットショッピングにおいては、認証団体のマークが入っていることや、SSL (Secure Socket Layer) という技術を用いて暗号化した情報をやり取りするようになっていくことなどのサイトを選ぶことも大切です。そのサイトのセキュリティポリシーや指針などが記載されている Web ページがありますので、見ておくことも必要でしょう。セキュリティポリシーや暗号強度、認証マークがどのようなものなのかを知っておくことも必要です。暗号化されていれば必ずしも信頼できるわけでもなく、商品代金だけが引き落とされるケースや解約返金に応じてもらえないケースが想定されるので、相手が信用できるかどうか、契約内容に不審な点はないかどうかについてもよく確認することが必要です。

また、ネットオークションなどの個人間の商取引では、出品者と落札者の間に業者が入るエスクローサービス等の安全性の高い取引方法もありますので、利用を検討することも必要です。エスクローサービスを利用しない場合は、相手の住所や連絡先を知らせてもらい、その内容を確認することも必要です。

携帯電話でも、ネットショッピングを行ったり、ネットオークションに参加したりできるようになっています。学校情報ネットワークを活用してネットショッピングのマナーや常識を学

習し、身に付けておくことも必要なことと考えられます。

### 架空・不当請求メール

利用していない有料サイトの料金を請求する「架空請求」メールや、メールの中の URL をクリックただけで料金を請求される「不当請求(ワンクリック請求)」メールが増加しています。

対策としては、「慌てて料金を支払わない」「メールを返信したり、問い合わせ先に連絡したりしない」「不審な URL をクリックしない」「証拠を保存しておく」等があります。

困ったことや分からないことがあれば、国民生活センターや最寄の消費生活センター等に相談するのも有効な方法です。

### 犯罪に巻き込まれないために

ネットショッピングやネットオークションでは、犯罪につながるものや、国によって販売が禁止されているもの、著作権法に違反するものが売買されている場合があります。そのようなものを購入し、知らずに犯罪に巻き込まれることのないように注意することが大切です。

**Q** . 授業で話せるようなネットショッピングでの失敗例はありませんか。

**A** . 実際にあった話を掲載します。

「七五三のお祝いに、インターネットを使って、お鯨を頼みました。Web ページ上では、予約が成立しました。受付されたことを示すページをプリンタで印刷しておきました。予約当日、プリントしたものを持って頼んだ店に行ってみると、店が無い! のです。付近を何度も探しましたがありません。慌てて他の店を探して調達しました。ネットショッピングの際には、向こうからの受け付けた旨のメールが来るようなシステムが必要だと痛感した一日でした。」



# ネットショッピング

- 1 本時の位置 LAN教室のパソコンの操作に慣れ、電子メールや検索サイトが適切に行えるようになったのちに行う。
- 2 指導目標 ネットショッピングの Web ページを調べることを通して、その現状や問題点を理解させ、適切に活用できる方法を習得させる。
- 3 目標行動 ネットショッピングを利用する際、セキュリティポリシーや個人情報の扱い、発信内容の暗号化について調べ、適切に活用することができる。
- 4 留意点 情報モラルの育成の観点から、次の事柄を理解させる。
  - ・ ネットショッピング
  - ・ 情報の暗号化
  - ・ 自己責任
- 5 準備 ネットショッピングのサイトの URL を調べる。URL のプロトコル部分が https:// などの鍵（錠前）のアイコンが出る Web ページを探す。

## 6 展開

	学習内容	学習活動	留意事項	評価規準
導入	ネットショッピングとは	インターネットで商品の購入をするときに注意することはどのようなことがあるかを考える。	注意点に関して、ここでは、深入りしないようにする。	
展開	ネットショッピングのサイトの閲覧  暗号強度	ブラウザソフトを立ち上げ、URL を入力する。  商品の値段を調べ、別のサイトではどのような値段なのかを調べる。  ブラウザソフトの右下に鍵（錠前）のアイコンが表示される Web ページを探す。	検索サイトで検索させる場合は、商品名とネットショッピングの And 検索を行うことを教示する。 実際の買い物や、購入のための氏名、住所、メールアドレスなどの入力をしていないよう教示する。	サイトにアクセスし、目的の商品を見つけ、商品の価格比較ができたか。

展 開	<p>認証マークとセキュリティポリシー</p> <p>支払方法や配送方法</p> <p>ネット犯罪</p>	<p>暗号強度についての情報を調べる。</p> <p>サイトのトップページに戻り、認証マークやセキュリティポリシーなどを調べる。</p> <p>支払方法、配送方法、返品の場合の取扱いなどを Web ページから調べる。</p> <p>禁制品の販売や詐欺など犯罪について考える。</p>	<p>鍵（錠前）のアイコンをポイントまたはクリックすると分かることを示す。</p> <p>暗号化の仕組みについては、深入りせず、Web ページで説明されている程度にとどめる。</p> <p>ブラウザソフトやサイトによって、異なる表示があるので、事前に調べる。</p> <p>違法行為などを生徒が発見した場合は、その場で、担当教員に申し出るよう指導する。その際、URL を記録するとともに、違法性について、生徒とともに考え、警察への連絡等も行う。各都道府県警察には、ハイテク犯罪の窓口があることを示す。</p>	<p>暗号強度（40 ビット、64 ビット、128 ビットなど）の確認ができたか。</p> <p>認証やセキュリティ確保の重要性を説明できるか。</p> <p>ネットショッピングの利用において注意すべき点を説明できるか。</p> <p>ネットショッピングが対面販売と異なり販売者にも消費者にも匿名性の高いものであることを説明できるか。</p>
ま と め	<p>まとめ</p>	<p>ネットショッピングを行う際の注意点を考える。</p>	<p>発展途中のネットワーク社会における自己責任の重要性を知らせる。</p>	<p>ネットワーク社会の利便性と危険性、自己責任を説明できるか。</p>

参考：大阪府警察サイバー犯罪対策推進本部 [http://www.police.pref.osaka.jp/05bouhan/high\\_tech/](http://www.police.pref.osaka.jp/05bouhan/high_tech/)